

旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

会議名	第4回 旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	令和元年9月26日(木) 10:00~11:30
開催場所	いなべ市役所 シビックコア棟 2階研修室 3、4
出席者	<p>【委員】14名          岩崎恭典、松岡洋、安藤修平、荒木佳子、滝本収、土岐昌男、神谷清、伊藤宗明、相田直隆、岡本恒一、佐藤秀子、池田秀夫、佐藤忠生、伊藤良子          (欠席：楠田泰司、桑原浩、近藤徳次、水谷善則)</p> <p>【事務局等】9名          いなべ市：健康こども部長、総務部長、福祉部長、教育部長、都市整備部長、建設部長、農林商工部長、企画部長、政策課</p> <p>【オブザーバー】13名          東員町：健康づくり課長、環境防災課長、総務課長、地域福祉課長、長寿福祉課長、学校教育副課長、社会教育課職員、建設課長、産業課長、町民課長、政策課長、政策課 2名</p>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 座長あいさつ</li> <li>3. 説明及び審議事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第3次共生ビジョンについて 修正箇所について</li> <li>(2) 意見交換</li> </ol> </li> <li>4. 事務連絡</li> <li>5. 閉会</li> </ol>
配布資料	<p>【事前配布資料 1】第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン(案)</p> <p>【資料 2】連携する施策に対する成果指標修正箇所</p>
公開、非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0人
議 事 概 要	
<p><b>1. 開会</b>  <b>【事務局】</b>          定刻となりましたので、ただいまより令和元年度第4回旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催いたします。</p> <p><b>2. 座長あいさつ</b>  <b>【座長】</b>          あいさつ</p> <p><b>3-(1). 第3次共生ビジョンについて</b>  <b>【事務局】</b>          資料1「第3次共生ビジョン」により説明。</p> <p><b>【委員】</b>          住民の定着を目指していくということで、日本人だけでなく、外国人の移住定住も重要になってくると思う。94ページの圏域住民にできることに記載しても良いのではないかと。</p>	

【事務局】

外国人の対応は、前回の懇談会でも意見が出まして、精査させていただきまして今これという対応ができないということで、95 ページの第 9 章今後の検討課題の下のところに複数項目にまたぐ課題として記載してあります。

修正箇所について

【いなべ市各担当部長】

資料 2「連携する施策に対する成果指標修正箇所」により説明。

3- (2) 意見交換

【委員】

この定住の施策は全て重要なことではあります、優先順位をつけた方がいいのではないかと。

【座長】

ここに上がっているものは、全て重要なことなので難しいところではありますが、毎年のチェックする中で、議論していくことになると思います。

【委員】

3 点あります。1 点目は、この共生ビジョンには様々な数値が出てくるとは思います、第 7 章連携する具体的事項の目標値がいなべ市、東員町の合算数値になっており、分かりにくい。例えば、45 ページの障がい者福祉サービスの推進の目標値は 10,100 人ですが、どっちにどれだけのいるかも分かる方が良いでしょう。

2 点目は、実績数値の中でパーセントというものがあります。分母、分子の表記がない。例えば 47 ページのいじめ・不登校などの課題に対する適切な対応のところ、生徒数すなわち分母の数によって状況が違ってくるとは思います。パーセントでは評価しづらいのではないかとはいいます。

最後は、54 ページの交流・移住の促進の H30 実績値の 7,452,017 件は年間ですよ。職員の従事日数で割ると 1 日あたり 31,000 件くらいアクセスがあると思います。この数値の中で何人移住に繋がったかという数値が出れば、ホームページの広報のやり方の分析ができ、定住に繋がってくるのではないかと。

【いなべ市福祉部長】

1 点目のご指摘の中で、45 ページ障がい者福祉サービスの推進の目標値 10,100 人の話ですが、実績値であげますと、H30 年度はいなべ市 1,242 人、東員町 8,841 人です。この差はコミュニティバスの利用者数が原因です。なので、別々に表しても比較するのが難しいと思われる。

【委員】

いなべ市も東員町も同じレベルで数値を表記しなければならない。なので、コミュニティバスの分をこの施策で出すのではなく、また別の施策で出す方が良いでしょう。

【東員町政策課長】

東員町のコミュニティバスについては、使用料が発生してきます。そのため回数券の購入数を入れています。

【座長】

このことについては、両市町とも検討いただければと思います。44 ページの地域包括ケアシステム構築の深化・推進でいなべ市は 118 自治会、東員町が 23 自治会、合計 141 自治会だと思います。

【いなべ市福祉部長】

いなべ市の場合は、例えば阿下喜でいうと、北町という自治会ありますが、北町 1、2、3 と分

かれています。新町でいうと上、下と分かれています。なので、必ずしも1自治会に1つ設置されているわけではありません。そのため、こういう指標になっています。

【座長】

それでは、各委員さんにこの第3次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョンに対するコメントをいただきたいと思います。

【委員】

私は医療の分野で関わっていますが、定住の子育ての分野で、いなべ総合病院は特に小児科の入局者も少なく、医師の派遣がほとんどありません。あと5年後、現状で対応できるのかと悩んでいるところでもあります。

【委員】

障がい者施設長から副施設長に代わりました。聴覚障がいの支援を手話通訳などで行っていますが、視覚障がいの方への支援はどうなっているのか。もう一つは、障がい者を含め、我が施設も緊急避難場所になっていますが、電気の供給が切れた時、発電機等の物資を送ってもらえるのでしょうか。

【いなべ市福祉部長】

視覚障がい者の外出支援を今までも行っています。

【いなべ市総務部長】

発電機については、状況に応じて必要なところには持っていきます。

【委員】

災害があった時ではなく、緊急避難場所に指定してあるところに常時発電機をおいてくれと前から要望していますが、一向にもらえない。災害があった時にすぐ持ってきてくれるのか。

【いなべ市総務部長】

そういう体制はあります。常時置いておくとなりますと、個数も限られていますので、災害がおきた時に置いてあるところは不要で、違うところで必要になるということがある。そのため、常時置いておくことはしません。

【委員】

50歳すぎの女性で障がい者施設に通う方がみえます。その親が80歳になり、その親が娘をみられないと相談がありました。その親さんは何とかみもらえるよう事業や施設を探し、最終的に北勢病院でみていただいたということでした。こういった方のニーズに迅速に対応できるよう施設同士の横連携が進めばと思います。

【委員】

44ページの地域包括ケアシステム構築の深化・推進についてですが、認知症対策、買い物サービスの充実に繋がるようにしてほしい。もう一つは、千葉県であった災害の後片付けが遅れていると思いますが、いなべ市、東員町の防災関係でもっと共同で防災対策が行えるようにしていくべきだと思います。

【委員】

教育について、統廃合により藤原小学校ができ、バスで児童を送迎しています。学校の行き帰りは、自分の足で行くべきだと思っています。一つにするのではなく、通える距離に複数学校を建設するべきだのではないのでしょうか。もう一つは、1年生、6年生の子が同じ時間に帰ると1年生の子の方が授業時間が少ないので、6年生を待っている時間ができると思います。そのあたりのどう対応しているのか教えてほしい。

【いなべ市教育部長】

統廃合については、地域の方も含め検討する中で、でた結論です。1年生が6年生の授業終了を待つ件については、バスの降車場所から家に帰るまでの間の安全面を考え、6年生を待ち一緒に帰るようにしています。

【委員】

産業振興のところで、毎年1件ずつくらい企業の誘致をしていますが、場所を考えていただきたい。大きな田んぼをつぶして、一つ話が進んでいると思いますが、集中豪雨時に雨水が流れなくなったり、防災面にも影響してくると思います。もう一つは、東員町では食の教育の一環で専業農家の方が講師となり、農作業体験などを行っていますが、どういう思いで作っているのかとかこの事業をもっとPRしていくべきだと思います。

【座長】

いなべ市で市民団体が推進しているフェアトレードタウン運動が活発化してきていますが、それとこの東員町のフードマイレージの話はリンクするものではないでしょうか。

【いなべ市企画部長】

フェアトレードは、途上国の環境保全だけでなく、地産地消にも繋がっていくものです。

【座長】

そうであれば、それぞれの取組がリンクしていくと良いでしょう。

【委員】

令和6年度まで高い目標値が設定されていますので、より連携し、この目標値を達成できるよう頑張っていければと思います。

【委員】

消防団員数ですが、425名はいなべ市327名、東員町98名の合算ということですよ。いなべ市の立場で言うと、327名で3名減ということですが、4月1日付で327名いても年度末には転勤されたり、地域が変わったりします。途中で団員を補充しませんので、この基準日でもいいのかと思います。ただ消防団としては年明けに人材確保のため、めぼしい人材に声掛けしています。行政としても人材確保に力を入れていただきたいと思います。

【委員】

49ページの外部専門機関との連携による学校負担軽減のところで、教育委員会と福祉部が連携し充実した相談体制が取れています。ただ少子化により子ども数が減っていくと思いますが、現状の相談体制を維持していただけるということを目標値にあげていただいていますので、非常にありがたく思っています。

【委員】

第3次共生ビジョンを作るだけでは、無責任なことで、1年1年状況をみて翌年何に取組んでいかなければいけないと思います。もう一つは、42ページの中核病院であるいなべ総合病院の機能確保のところで常勤医師数24名確保するとのことですが、24名確保するために何をしなければならぬかわからない。その確保するために行政が負担している部分があるのかなど、予算的な部分についてもわからない。そのことについて検討する必要がないのであれば記載しなくてもよいが、どうでしょうか。

【いなべ市健康こども部長】

予算については、医師確保のため、名古屋市立大学病院に毎年3,000万円寄附をしています。この3,000万円は、市の一般財源だけでなく、クラウドファンディングを活用し、医師確保を応援する方からの寄附も含まれており、その額は300万円ほどになります。今年も10月に入りましたら、受付が始まりますので、ぜひご協力いただけたらと思います。

【委員】

医師確保にはお金がかかります。どこの市民病院でも持っていますが、医師住宅があれば集まりやすくなると思います。

【委員】

46 ページの子育て支援センターの充実のところで、支援センターにデビューするということは、とても勇気のいることであります。来る人数を増やすことも大事ですが、行くことに悩みをかかえている方のフォローする仕組みが支援センターにあると思います。もう一つはいじめ、不登校のところですが、それが起こらないようにするための対策が必要だと思います。

【座長】

支援センターに行けない保護者に対し、されている支援があれば教えてください。

【いなべ市健康こども部長】

2 歳半までにブックスタートというものを 2 回行っていまして、案内送っても来られない方はご自宅にお邪魔して、了承が得られれば、自宅で行わせていただいています。また児童センターで支援センターの案内を毎月ポスティングさせていただき、声掛けさせていただいております。母子保健事業で保健師が妊娠の時からコンタクト取っており、出産したら、4 週間以内にお話し、お話しさせていただき、接触する機会を設けさせていただいております。就学までに 12 回ほどそういう機会を設けています。

【委員】

49 ページの土地利用のところで、34 条 11 号の件数ですが、平成 30 年に 91 になっていますが、目標値は毎年 30 になっています。この目標値は消極的な設定ではないか。秩序ある開発、基盤整備をお願いします。

【委員】

14 ページの図書館の設置数ですが、員弁町の図書館は員弁東小学校の中に移転しまして、一般の人は中々利用しにくい状況です。実際、貸出登録数は小学生が大半を占めていると思われま。一般の人が利用しやすいように工夫できないか。員弁庁舎に移転するといううわさを聞いたりましたが、どのような感じでしょうか。

【いなべ市教育部長】

そういうご意見は他にもありまして、員弁町内でいい場所を検討中です。

#### 4. 事務連絡

【事務局】

パブリックコメント、次回の懇談会について

#### 5. 閉会

【事務局】

閉会の挨拶